

日技指定研修【顎口腔機能学】

抄 録

演題：『顎口腔機能学』をわかりやすく！
～咬合器設定のちがいによる臨床例～

公益社団法人 日本歯科技工士会
副会長 森野 隆

1995年に「歯科技工士教本『顎口腔機能学』」が発行され、新たに新学科目として加わった。その後約10年を経過した2007年に改訂されている。すなわち、全くこの学科目を学生時代に履修していない方、1995年から2006年までの教本で学んだ方、2007年以降の改訂版の教本で学んだ方と3つのグループに分けられる。

そこで今回の研修では、「顎口腔機能学」で新たに加わった「顎口腔系の機能」、「顎口腔系の形態」に関する事項と、2007年以降に加わった内容、実際の臨床での咬合器の調整機能（矢状顎路、側方顎路、平衡側側方顎路、作業側側方顎路）設定の違いによる、補綴物の咬合関係をお見せしようと思う。

生体に調和した補綴物製作には不可欠な、顎口腔機能の最低限の知識を提供させて頂き、各自が自ら学ぶきっかけになって頂ければとおもう。